

学校概要

創立 44 周年	学校長 高橋 貞則	副校長 木内 由美子	学期 2 学期制	児童・生徒数 524 人
学級数 一般級: 18 個別支援級: 2		主な関係校: 西柴中学校		

学校教育目標

「光 あふれる 西柴」(キャッチフレーズ)  
 ○自分らしさを発揮し、豊かな感性を育み、自分の思いや考えを伸び伸び表現できる子を育てます。(知・開)  
 ○豊かななかかわりの中で、自分を大切にし、互いの生き方を認めていく子を育てます。(徳)  
 ○健やかな心と体をはぐくみ、自分や人の命と体を大切にすることを育てます。(体)  
 ○人や自然、地域を大切にし、思いやりをもてる子を育てます。(公)

学校の特色

□新興住宅地の中に位置する本校は、近くに歴史的な遺産称名寺や海の公園など、周囲の自然環境にも恵まれている。  
 □地域の人々からも温かい支援が寄せられ、子どもたちも素直でのびのびと生活し、友達関係も穏やかである。  
 □平均経験年数は低くなってきているが、学習指導、生活指導に熱心な職員が多く、自分で指導法を工夫したり、アドバイスをし合ったりする姿がよく見られる。  
 ■物事に対する意欲や一生懸命さが弱く、自立性にやや欠ける傾向にある。  
 ■学力・学習状況調査の結果から、全市と比較すると、自己肯定感が低い児童が多い。

学校経営中期取組目標

◎協働して学び合い、高め合う力を育み、確かな学力の育成と温かな人間関係を図ります。  
 ○全教職員が共通理解の元、同じ方針でチームとして児童指導に当たります。  
 ○児童と児童、児童と教職員、教職員と教職員の人と人との関わりを大切にし、心の教育に努めます。  
 ○家庭・地域・関係機関や公共施設との協力・連携を深め、開かれた学校づくりを推進します。

小中一貫教育の取組

西柴中	ブロック	西柴中学校・西柴小学校
9年間で育てる子ども像	○豊かななかかわり合いの中で、自他を大切にし、社会の中で生きていく子ども	
自校の具体的取組	・「自己肯定感を育成する指導の工夫」をブロックの共通目標として、「小中一貫教育共通取組項目一覧表」を作成する。 ・年間を通して、相互の授業参観を各2回程度行う。1月には、小中合同授業研究会(今年度は中学校で開催)で、教科別(国・社・算・理・音・美・図・保体・英)・領域別(特活・道・総合生活・行・視・個支・保健食育)の2つのカテゴリで分科会を行い、小中一貫カリのよりよいものへの改善を目指す。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	◎基礎基本の定着を目指すと共に、共に学び合い、主体的に学習する態度や表現力を育成する。	○授業展開の工夫をしたり、個に応じた指導・支援の充実を図ったりしながら、基礎・基本の定着を目指す。○重点研の研究テーマを「言語の力を伸ばし、自分の思いや考えを生き生きと表現できる子どもの育成」と設定し、国語科の学習を中心に、自分の思いや考えを主体的に表現できる活動を設定する。
豊かな心	◎「道徳の時間」を充実させるとともに、たてわり活動やあいさつ運動等の取組の中で、人権意識や規範意識を高めていく。	○学級目標の中に、人とかかわりを含めた内容を入れ、人権感覚と意識の定着を図る。 ○たてわりでの取り組みを通して、思いやりの心を育てる。 ○年間を通してあいさつ運動を行い、人との接し方やマナーを身につけさせるとともに、地域の人たちに対する感謝の気持ちを育てていく。
健やかな体	◎自分のめあてをしっかりともち、運動を楽しむ子の育成や根気強く最後まで運動する力を育てる。	○早寝・早起きの励行、朝食を食べたり、適度な運動をしたりする等の健康的な生活習慣を身につける実践力を育てる。→養護教諭・家庭科専科との連携(3・4年の保健、家庭科) ○外遊びや運動の推進を図ることで、健やかな心と体を育み、たくましく生活できる力を育てる。→運動委員会や集会委員会との連携(とべとべフレンドパークやたてわり集会)
国際交流	◎異なった言語・文化に触れる経験を持ち、理解・受容・寛容な態度を養い、自国をまた別の新たな観点から客観的に見つめることができるようにする。	○オーストラリアとの姉妹校交流を通して、目的をもったコミュニケーションの機会をもつ。 ○オーストラリアに対する児童の興味・関心、イメージがもてるよう、校内に国際交流コーナーを設置し、オーストラリアのことや姉妹校からの写真を掲示する。 ○委員会でイングリッシュ週間を決め、集会やパクロスに楽しんで取り組めるようにする。
地域連携	◎学校懇話会の開催をしたり地域の行事への参加をしたりするとともに、保護者・地域のサポートを生かしながら開かれた学校づくりに努める。	○地域防災訓練等に対して学校が協力できることを考え、児童と職員が積極的に参加できるようにする。 ○各地域の代表者の方々と学校懇話会の意義と役割について共有し、懇話会設置に向けた準備を行う。
児童生徒指導	◎児童が安心して学習したり生活したりすることができるよう、必要に応じて支援方法を探り、実践していく。	○子どもとのコミュニケーションを大切に、児童理解に努める。 ○教育相談の場を充実させ、問題の早期発見や未然防止に努める。 ○定期的に教職員の研修を設定してスキルを高めたり、教職員どうしの情報交換を密にして情報の共有化を図ったりして、校内の自浄能力を高めていく。
人材育成・組織運営	◎教職員の専門性が向上するとともに、メンターチームが主体的に指導改善を推進する研修が計画的に行われている。	○メンターチームを4年目未満教職員が中心となり、10～12年次教諭や主幹教諭を講師とし、模範授業を公開するなどして研修を積み授業力を高める。 ○特別支援・人権・児童指導等の研修会を開き、教職員全体で組織的に対応できるようにする。